

<<TOPIC>>

今回の特集は、一つ目の記事では米国の大学で学んだ学生を他の国はどのように自国に誘致しているかについて取り上げております。二つ目の記事では、レガシー・アドミッションについて取り上げております。三つ目の記事では、コミュニティー・カレッジからの4年制大学への編入者数について取り上げております。

コンテンツ

◆紹介記事◆	1
1) 米国の大学で学んだ留学生を他国はどのように誘致しているか	1
・記事1) deepL 日本語翻訳	1
・記事1) オリジナル本文(英語)	5
2) レガシー・アドミッションとは何か?なぜ大学側は再検討しているのか?	7
・記事2) deepL 日本語翻訳	8
・記事2) オリジナル本文(英語)	11
3) コミュニティー・カレッジからの編入数、州政府の目標をはるかに下回る	15
・記事3) deepL 日本語翻訳	15
・記事3) オリジナル本文(英語)	19
◆もっと知りたい場合◆	23

◆紹介記事◆

1) 米国の大学で学んだ留学生を他国はどのように誘致しているか

本稿では、英国、オーストラリア、カナダといった国々が、米国の大学を卒業した留学生を含め、高度な技能を持つ移民をどのように惹きつけているかについて論じています。ハイテクなどの分野で熟練労働者の需要が高いことで知られる米国は、移民制度における課題に直面しており、その結果、有能な人材が他国に活躍の場を求めるようになっていきます。この記事は、米国が高い技能を持つ移民にとって魅力的であり続けるために、移民制度を改革する必要性を強調しています。

<https://www.washingtonpost.com/education/2023/06/17/international-students-jobs-visas-recruiting/>

・記事1) deepL 日本語翻訳

タイトル：米国の大学で学んだ労働者を他国
はどのように誘致しているか

The Washington Post / 2023.6.17

ロンドン - Cansu (「ジョンス」と発音する) デニズ・バイラク氏が母国トルコからの移住先を決めようとしたとき、彼女が最初に考えたのはサンフランシスコでした。

まだ 20 代だった彼女は、すでに E コマース・ウェブサイトを開発し、母国ではそのカテゴリーでトップに上り詰め、テック企業に引き抜かれ、さらに別のテック企業に引き抜かれていました。年間 16 万人以上のソフトウェア開発者と関連スペシャリストの需要が予測され、ハイテク企業がその採用が最大の経営課題であるとアンケートで答えています。

しかしバイラク氏は、渡米するには雇用主のスポンサーが必要であることをすぐに知りました。それでも、H-1B ビザの抽選に参加しなければならず、承認される確率は 4 分の 1 しかありません。もし解雇されたら、60 日以内に新しい仕事を見つけなければなりません。

バイラク氏はロンドンのパブで一杯やりながら自分の話をしました。ロンドンでは、移民を積極的に採用し、雇用主のスポンサーや抽選、長くて予測不可能な待機期間を必要とせず、帰化手続きを簡素化しています。その英国のプログラムのおかげもあって、彼女は、現在ロンドンに住んでいます。

現在 37 歳のバイラク氏は言いました。「(みんなアメリカに来るに決まっている) というある種の思い上がりがありました。しかし、英国に来ることは ”はるかに簡単 ” であることが判明しました。

アメリカで働こうとする外国生まれの志願者がお役所仕事と長い遅れに直面する一方で、イギリス、オーストラリア、カナダなどの国の新しい「タレント・ビザ」は、世界で最も需要の高いスキルを持つ人々を引き寄せています。

今、これらの国々は別のターゲットに狙いを定めています。ハイテクやその他の需要の高い分野で働くために米国の大学で教育を受ける留学生たちです。

ロンドンの法律事務所キングスレー・ネープリのパートナーでビジネス移民部門の責任者であるニコラス・ロラソン氏は、「私たちはアメリカのシステムの失敗の恩恵を受けているのです」と言いました。

米国で学ぶ留学生の大半は米国に留まりたいと言っており、米国の雇用主は不足している分野の仕事を埋めるために彼らのような労働者を必要としています。しかし、カリフォルニア大学デービス校などの研究者によれば、外国生まれの米国大学学士号取得者の 11%、修士号取得者の 23% しか、米国に留まり働くことができていません。

パンデミック後、国際大学への入学が再び増加

米国の大学を卒業した外国人は、オプショナル・プラクティカル・トレーニング (OPT) と呼ばれるビザを申請することができ、勉強した内容によって 12 ヶ月から 36 ヶ月の滞在が可能です。しかし、H-1B の抽選が長引くなど、手続きの遅れやその他の問題もあり、昨年の OPT ビザ取得者数は 184,759 人で、2019-20 年のピーク時から 17% 減少しました。

コンピュータ・サイエンスと電気工学を大学院レベルで学ぶ人々の約 80% が留学生である米国の人材供給にとって、これは不吉な意味を持つ、と全米アメリカ政策財団は報告しています。

他の国々は、貴重なスキルを持つ外国生まれの大学卒業生が直面する米国の制度の難しさを熱心に利用しています。

イギリスは昨年、「ハイ・ポテンシャル個人」ビザを追加し、世界一にランクされた国外の40大学（うち21大学はアメリカ）の新卒者に2年間の滞在を提供しました。

ロラソン氏によると、この時期、彼の事務所には、アメリカの大学を卒業したばかりだが、OPTビザを待っている、あるいはH-1Bの抽選でビザを取得できない留学生から定期的に連絡があると言いました。そこで、彼らはイギリスへの移住を決めたのでした。

「ハーバードやスタンフォード、マサチューセッツ工科大学を卒業した人たちを欲しがらないのはなぜですか？」とロラソンは愉快そうに尋ねました。

移民制度改革を提唱するワシントンのシンクタンク、ニスカネン・センターの分析によると、2017年から2021年にかけて、米国の大学を卒業した外国生まれの4万人近くがカナダに採用されました。

オーストラリア内務省の南北アメリカ地域ディレクター、パトリック・ハリナン氏は、ワシントンに拠点を置く移民政策研究所（Migration Policy Institute）が開催したこのテーマに関するウェビナーで次のように語りました。

米国は、国際的な人材の誘致において依然として大きな優位性を享受しています。例えば、テクノロジー・ビジネスへのベンチャー・キャピタル投資は、2位の中国の4倍と圧倒的に多いです。専門職種の外国人労働者を対象とするH-1Bビザの今年度の申請者数は好調を維持し、昨年より60%近く増加しました。しかし、30年以上前に設定された上限枠のせいで、すでに4分の1だった認可の確率は7分の1にまで急落し

ました。

「オックスフォード大学移民観測所のマドレーン・サンブション所長は、「米国は移民制度にもかかわらず、競争力を維持できています。」と言いました。「人々が混沌とした移民制度を容認するのは、他に魅力的なものがたくさんあるからです」。

しかし、長期的に見れば、「問題は、他の国々が人材獲得競争に真剣に取り組み始めたとき、その動きは変化するのか、ということです」と移民政策研究所の政策アナリスト、ケイト・フーパー氏は言いました。

先月、米下院に提出された法案は、雇用関連のビザに関する国ごとの制限を撤廃し、科学、技術、工学、数学の学位を持つ留学生の米国滞在を容易にするものでした。これまでの同様の措置はどこにもたどり着きませんでした。

他の国々は技術を持った移民が暮らしやすいようにすると約束していますが、それでも簡単ではありません。パブに戻ったバイラク氏のグラスは、2月によりやく手にしたイギリスのパスポートまでの紆余曲折を列挙し終える頃には空になっていました。

しかし、それでもイギリスの道はアメリカの道より早く、シンプルですと、ロンドンの新興ハイテク地区ショーディッチを見下ろすオフィスでロラソン氏は言いました。

「インド人エンジニアがアメリカとイギリスの2つの仕事のオファーを受けたら、どちらを選ぶかは想像がつきます」と彼は言いました。

新しいビザが高度な技術を持つ移民を大量に呼び込むかどうかは別として、「この人材争奪戦に参加するという点で一定の役割を果たし

ます」とフーパー氏は言いました。「一種のマーケティング的要素があり、才能ある人材に門戸を開いていることを示すのです」。

彼女はアメリカについてこう付け加えました：「私たちはどのようなシグナルを送っているのでしょうか？」

グローバル・タレント・ビザで英国に入国した人々を追跡する調査はまだ始まったばかりですが、「これらの（移民の）多くは、真っ当な企業で働いたり、自分の会社を設立したりしているようです」と、ロンドンを拠点とし、法律調査プロバイダーの LexisNexis でビジネスおよび個人移民法を専門とするジョナサン・キング・ハム弁護士は言いました。

というのも、「人々が自然に輝けるようにすれば、彼らは素晴らしいものを生み出すからです。」と、同じくイギリスに移住したロシア人ソフトウェア・エンジニアのセルゲイ・ノズドレンコフ氏は言いました。彼はイタリア生まれの移民と共同で、科学者や商業関係者が海洋の生物多様性を測定し、藻類の発生を予測するのに役立つ技術を開発しています。

ノズドレンコフ氏（30歳）は、ロンドンのリバプール・ストリート駅前のコーヒー・ショップで、ベンチャー・キャピタルの頭文字を使って、「アメリカはVCが多い」と語りました。「でも入国審査が大変なんです。どうやってアメリカに行って、スタートアップを立ち上げるんですか？ノーベル賞を受賞しない限り無理です」。

労働市場分析会社ライト・キャストによれば、メタ、アマゾン、その他の米ハイテク大手の最近の解雇にもかかわらず、これらの分野では深刻な人手不足が続いています。ライト・キャストによれば、アメリカでは昨年、ソフトウェア開発者、データベース管理者、コンピューター・

ユーザー・サポート・スペシャリストの求人が400万件以上出され、コンピューターやIT関連の仕事の数は2031年までにさらに15%増加すると予測されています。

デロイト社によれば、半導体生産の強化に数十億ドルが費やされる中、この業界だけでも7万人から9万人の労働者が不足すると予測されています。同じく注目されている人工知能の分野でも、ジョージタウン大学安全保障・新興技術センターによれば、米国の労働人口の半分以上が移民で占められています。AI関連分野の米国大学大学院生の3分の2は外国人です。

ニスカネン・センターの移民研究アナリスト、セシリア・エスターライン氏は、「私たちは優秀な人材を教育しているのに、結局は他国に流出してしまうのです」と言いました。

「これらの仕事に必要な人材が米国内にいないのです。」と彼女は言いました。「しかし、そのような人材に必要なビザがないのです。（今）他の国々は私たちの卒業生を獲得するチャンスに飛びついているのです。」

グーグル広告からNFLのスポンサーまで：大学は学生を惹きつけるため、何十億ドルもの資金を投じてマーケティングを行っています。

その結果、留学生は米国に来るかどうかを考え直すようになったようです。米国商務省の報告によれば、これは経済全体だけでなく、年間450億ドルを留学生から得ている大学やそのコミュニティにとっても脅威です。

米国における留学生の数は2016年以来横ばいか減少しています（パンデミックのピーク以降は若干持ち直しましたが、数字が入手可能な直近の年である2021-22年にはまだパンデミック前のレベルを下回っています）。また、全米科学

財団の最新の数字によれば、特に重要な科目である科学と工学の留学生の登録者数は、何年も右肩上がりの成長を続けてきましたが、2018年に減少に転じました。

大学の留学生募集を支援するインターストライド社の調査によると、留学生の間では、卒業後に国内に留まることができるかどうかが大きな懸念となっています。

「留学生の受け入れ先としてトップの座は危ういです。」とエスターライン氏は言いました。

「他の国々が移民を歓迎するような新しい制度を打ち出している今、私たちは必ずしもそれに追いついておらず、優位性を失いつつあるのです」。

・記事1) オリジナル本文 (英語)

TITLE : How other countries are luring workers trained in U.S. universities

The Washington Post / June 17, 2023

LONDON — When Cansu (pronounced “Johnsu”) Deniz Bayrak was deciding where to emigrate from her native Turkey, she first considered San Francisco.

Only in her 20s, she had already co-created an e-commerce website that rose to the top of its category in her home country, been snatched up by a tech company, then poached by another tech firm. But she saw more opportunity in the United States, where there is a projected demand for more than 160,000 software developers and related specialists per year, and where tech companies said in a survey that recruiting them is their biggest business challenge.

Bayrak quickly learned, however, that to come to the United States, she would need an employer sponsor. Even then, she would have to enter a lottery for an H-1B visa, with only 1-in-4 odds of being approved. If she was laid off, she would have 60 days to find a new job, or she would probably have to leave.

Bayrak was recounting her story over a pint in a pub in London, where she now lives thanks in part to a U.K.

ノズドレンコフ氏は、もし手続きがもっと簡単だったらアメリカに移住していたかもしれないと語りました。しかし、英国で歓迎された技術を持つ他の移民と同様、彼は英国が「今は故郷のように感じる」と語りました。そして彼はここに留まるつもりです。

彼は少し立ち止まって考え直しました。

「冬はスキップするかもしれないけどね。」と彼は言いました。「暗すぎるから」。

www.DeepL.com/Translator (無料版) で翻訳しました。

program that actively recruits immigrants with skills in short supply and streamlines the naturalization process for them — no employer sponsor, lottery, or long and unpredictable waiting period required.

“There’s a certain element of hubris that, ‘Of course people are going to come to the U.S.,’ ” said Bayrak, now 37. But coming to the United Kingdom turned out to be “much easier to navigate.”

While foreign-born applicants who want to work in the United States face red tape and long delays, new “talent visas” in the United Kingdom, Australia, Canada and elsewhere are luring away people who have some of the world’s most in-demand skills.

Now these countries are homing in on another target: international students being educated at U.S. universities to work in tech and other high-demand fields.

“We are a beneficiary of the failures of the U.S. system,” said Nicolas Rollason, partner and head of business immigration for the London-based law firm Kingsley Napley.

Most international students in the United States say they want to remain, and U.S. employers need workers like them to fill jobs in areas of shortage. But only 11 percent of foreign-born U.S. university bachelor's degree recipients and 23 percent who get master's degrees manage to stay and work in the United States, according to researchers at the University of California at Davis, and elsewhere.

International college enrollment ticks back up after pandemic

International graduates of U.S. universities can apply for an optional practical training, or OPT, visa that allows them to stay in the country for 12 to 36 months, depending on what they studied, after which they have to get an employer sponsor and enter the lottery for an H-1B visa. With delays in processing and other problems, including those long odds for an H-1B, however, the number getting OPT visas was 184,759 last year, down by 17 percent from its peak in 2019-20.

That has ominous implications for the supply of talent in the United States, where around 80 percent of people studying computer science and electrical engineering at the graduate level are international students, the National Foundation for American Policy reports.

Other countries are eagerly taking advantage of the difficulties of the U.S. system faced by foreign-born university graduates with valuable skills.

The United Kingdom last year added a "high potential individual" visa, offering a two-year stay to new graduates of 40 universities outside the country ranked as the best in the world — 21 of them in the United States.

Rollason said that, at this time of year, his firm is regularly contacted by international students who have just graduated from American universities but are still waiting for an OPT visa or can't get a visa through the H-1B lottery. So they have decided to move to the United Kingdom.

"Why wouldn't you want people who graduate from Harvard or Stanford or MIT?" Rollason asked mirthfully.

Nearly 40,000 foreign-born graduates of U.S. universities were recruited to Canada from 2017 to 2021, according to an analysis by the Niskanen Center, a Washington think tank that advocates for immigration reform.

Australian recruiters are also fanning out across the United States, attending job fairs and visiting university

campuses, Patrick Hallinan, regional director for the Americas in the Australian Department of Home Affairs told a webinar convened on this topic by the Washington-based Migration Policy Institute.

The United States still enjoys substantial advantages in attracting international talent. It boasts by far the most venture capital investment in technology businesses, for example — four times more than second-place China. The number of eligible applicants this fiscal year for H-1B visas for foreign workers in specialty occupations remained strong; it was up nearly 60 percent over last year. But because of a cap set more than three decades ago, the already distant 1-in-4 odds of approval plummeted to about 1 in 7.

"The United States has managed to remain competitive in spite of its immigration system," said Madeleine Sumption, director of the Migration Observatory at the University of Oxford. "People tolerate the chaotic immigration system because there's so much else that's attractive."

Over the longer term, however, "the question is: As these other countries start to take the race for talent more seriously, will that dynamic shift?" said Kate Hooper, a policy analyst at the Migration Policy Institute.

A bill introduced in the U.S. House last month would eliminate per-country limits on employment-related visas and make it easier for international students with science, technology, engineering and math degrees to stay in the United States. Previous similar measures have gone nowhere.

While other countries have promised to make life easier for immigrants with skills, it still isn't easy. Back in that pub, Bayrak's glass sits empty by the time she's finished listing the many twists and turns in her journey to the British passport she finally received in February.

But the British path is still faster and simpler than the American one, said Rollason in his office overlooking London's ascendant high-tech neighborhood of Shoreditch.

"I imagine if an Indian engineer has two job offers, one in the U.S. and one in the U.K., I can guess which they would choose," he said.

Whether or not the new visas attract large numbers of highly skilled immigrants, they "do serve a function in terms of staking a claim in this contest for talent," Hooper said. "There's a sort of marketing element that signals you're open to talent."

She added about the U.S.: “What signal are we sending?”

While research is only now getting started to track the people admitted to the United Kingdom through the global talent visa, “it seems to be the case that lots of these [immigrants] are working for decent corporations or setting up their own companies,” said Jonathan Kingham, an attorney based in London who specializes in business and personal immigration law at the legal-research provider LexisNexis.

That’s because, “if you allow people to naturally shine, they create great things,” said Sergei Nozdrenkov, a Russian software engineer who also moved to the United Kingdom, where he is working with an Italian-born immigrant to create technology that could help scientists and commercial interests measure marine biodiversity and predict algae outbreaks.

The United States “has more VC,” Nozdrenkov, 30, said at a coffee shop outside London’s Liverpool Street rail station, using the acronym for venture capital. “But the immigration process is very hard. How do you get to the U.S. and build your start-up? You can’t, unless you win the Nobel Prize.”

Notwithstanding recent layoffs at Meta, Amazon and other U.S. tech giants, deep shortages of workers continue in those fields, according to the labor market analytics firm Lightcast. There have been more than 4 million job postings in the last year in the United States for software developers, database administrators and computer user support specialists, Lightcast says, and the number of computer and IT jobs is projected to grow another 15 percent by 2031, with too few native-born workers to fill them.

As billions are being spent to beef up U.S. production of semiconductors, there is a projected shortage in that industry alone of 70,000 to 90,000 workers, according to Deloitte. In the equally hot field of artificial intelligence, more than half of the workforce in the United States consists of immigrants, according to the Georgetown University Center for Security and Emerging Technology. Two-thirds of U.S. university graduate students in AI-related fields are international.

“We are educating the best and brightest, and then we end up losing them to other countries,” said Cecilia Esterline, an immigration research analyst at the Niskanen Center.

“We don’t have the necessary talent within the U.S.” to do these jobs, she said. “But we don’t have the visas required to onshore the people who can.” Now “other countries are jumping at the opportunity to take our graduates.”

From Google ads to NFL sponsorships: Colleges throw billions at marketing themselves to attract students

One result is that international students appear to be reconsidering whether they want to come to the United States at all. That’s a threat not just to the broader economy, but to universities and their communities, which take in \$45 billion a year from them, the U.S. Department of Commerce reports.

The number of international students in the United States has been flat or down since 2016 (it’s picked up slightly since the peak of the pandemic, but was still below pre-pandemic levels in 2021-22, the most recent year for which the numbers are available). And international enrollment in the especially important subjects of science and engineering began to fall in 2018 after years of steady growth, according to the most recent figures from the National Science Foundation.

A survey by Interstride, which helps universities recruit international students, found significant concern among them about their ability to stay in the country once they graduate; fewer than half said the value of a U.S. higher education continued to justify the cost.

“Our ranking as the top destination for international students is in jeopardy,” Esterline said. “We’re not necessarily keeping up and we’re going to lose our edge when these other countries are coming up with new schemes that are very welcoming to immigrants.”

Nozdrenkov said he might have moved to the United States if the process had been easier. But like other immigrants with skills who have been welcomed to the United Kingdom, he said England “feels like home now.” And he is planning to stay.

He paused, reconsidering for a moment.

“I might skip winters, though,” he said. “It’s too dark.”

2) レガシー・アドミSSIONとは何か？なぜ大学側は再検討しているのか？

本稿では、レガシー・アドミSSION（卒業生と家族のつながりがある志願者を優遇する大学もあり、物議を醸している慣行）について考察しています。大学側は、レガシー・アドミSSION資格を持つ学生の方が、授業料を払う余裕があり、卒業後に寄付をする可能性が高いため、レガシー入学資格を利用して財政を潤します。一方名門校の中には、レガシー・アドミSSIONの優遇措置を廃止し、入学者層の変化を招いたところもあります。レガシー・アドミSSIONをめぐる議論は、人種に基づく大学入学者選抜政策に反対する最近の連邦最高裁判所の判決によって高まっています。

<https://www.usnews.com/higher-education/articles/legacy-admissions-what-it-is-and-why-colleges-are-reconsidering-it>

・記事2) deepL 日本語翻訳

タイトル：レガシー・アドミSSIONとは何か？なぜ大学側は再検討しているのか？

U.S. News / 2023.7.21

何十年もの間、一部の大学では、卒業生と親戚関係にある学生を入試で優遇してきました。レガシー・アドミSSIONと呼ばれるこの優遇措置は、長い間物議を醸してきましたが、最近の連邦最高裁判所の志願者の人種を考慮する大学入試方針に対する判決を受け監視の目が厳しくなっています。

レガシー・アドミSSIONとは、レガシー優遇または卒業生コネクションとも呼ばれ、入学希望者が卒業生（通常は両親または祖父母）の血縁者であるという理由だけで、その大学への入学の可能性を高めることを指します。

全米大学進学カウンセリング協会（National Association for College Admission Counseling）の最高教育・政策責任者（Chief Education and Policy Officer）であるデビッド・ホーキンス氏は、レガシー資格を持っているからといって、入学が保証されるわけではないといいます。

「卒業生との関係を持っているだけで入学できるというような、一律的なものではありません

ん。レガシー資格は、他の要素が考慮されれば、むしろ影響要因として作用する傾向があります」とホーキンス氏は言います。

「メリーランド大学カレッジパーク校のジュリー・パーク准教授（教育学）は言います。「他の人たちと同じように、お金を払って入らなかったわけではありません。しかし、レガシーであることは、あなたをさらに後押しするものなのです」。

レガシーであることは、競争率の高い大学に入学するのに役立つことが多いですが、レガシーであることの真価は大学と志願者の両方に左右されるというのが多くの専門家の意見です。

認定教育プランナーであり、エデュケーショナル・アドボケイト・カレッジ・コンサルティングの創設者兼社長であるジョーン・ケーシー氏は、レガシー学生は通常、成績、テストの点数、課外活動において、少なくとも「ある程度の水準」に達していなければならないと言います。

また、レガシー学生の両親が政治家や有名人などの著名人であったり、母校に多額の寄付をしていたりすれば、その地位はさらに重みを増すかもしれません。ケーシー氏によれば、ギャップ・イヤーを取ることに同意すれば、入学クラ

スの定員数によっては、レガシー志願者に遅れて入学を許可する学校もあると言います。

全体として、レガシーというステータスは、全米の多くの学校で大きな後押しになると、オブザーバーは言います。

なぜ大学にはレガシー入学制度があるのか？

レガシー・アドミッションの採用は、全米の多くの高等教育機関、特にマサチューセッツ州のハーバード大学やカリフォルニア州のスタンフォード大学のような高選抜の名門校において、長年にわたる伝統となっています。

しかし、レガシー優遇を採用したことのないトップ校や、近年レガシー優遇を廃止したトップ校もあります。

U.S. News で国立大学ランキングの上位にランクされ、レガシー・アドミッションを実施していない学校には、以下のようなものがあります：

- マサチューセッツ工科大学
- ジョンズ・ホプキンス大学（メリーランド州）
- カリフォルニア工科大学
- カーネギーメロン大学（ペンシルベニア州）
- カリフォルニア大学サンタバーバラ校

ホーキンス氏は、2,300 以上の大学からの調査回答に基づく NACAC の 2019 年版報告書を引き合いに出しながら、「約半数の教育機関が、ある程度検討している可能性があります」と言います。「そして、それらの教育機関の大多数は、そ

れを重要視しておらず、意思決定プロセスにおける重要度は中程度から低いと評価しています。」

教育機関がレガシーを優遇する主な動機のひとつは、収益につながるからだというのが専門家の意見です。

マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院のエミリオ・カスティーリャ教授（経営学）は、なぜ一部の大学がいまだにレガシー志願者を優遇しているのかを明らかにするため、16 年間にわたって無名のある大学のデータに焦点を当てた調査研究を行いました。

「私たちが調査した大学は、レガシーを入学させることで経済的な利益を得ているという強力な証拠を発見しました」とカスティーリャ氏は言います。

カスティーリャ氏によると、レガシー学生は経済的に余裕があることが多く、学費の援助が少なく済みます。また、レガシーの学生は、卒業後、より多額の寄付をより頻繁に行う可能性があります。レガシーであることは、関連する卒業生からの継続的な寄付の動機付けにもなります。

また、レガシー・アドミッションの支持者の多くは、学校と家族的なつながりがあることで、その教育機関のアイデンティティーに基づき、学生や卒業生の間に共同体意識が形成されますと主張しています。

大学はレガシー・アドミッションを認めるべきか？

レガシー・アドミッション制度を導入している多くの教育機関は、この制度がより特権的な志願者を優遇し、キャンパスの多様性を低下させると主張する反対派からの圧力を受け、その廃

止を求める声が高まっています。

「レガシー入学者の大半は白人であるため、この制度は人種に大きく関係しています」とパーク氏は言います。「有色人種の学生もレガシーにはいますが、その数はずっと少ないのです」。

しかし、レガシーの属性は学校によって異なる可能性があります、というのが専門家の意見です。ホーキンス氏によれば、特定の教育機関では、卒業生とのつながりが富や人種とそれほど密接に関連していない可能性があります、コミュニティ形成をより強く主張することができますと言います。

「小規模の私立学校を例にとると、卒業生のつながりは富とは結びつかないかもしれない。特権とはあまり関係がないかもしれません。考えてみれば、この 20 年間に大学を卒業した人はたくさんいるのですから」とホーキンス氏は言います。

高等教育機関の入試における人種優遇措置に反対する最高裁の判決を受け、レガシー・アドミッションもそれに倣うべきだという意見が多いです。

アメリカン・エンタープライズ研究所のシニア・フェロー兼教育政策研究ディレクターであるフレデリック・ヘス氏は、「もし教育機関が、理論上平等を促進するために意図された方法で、人種や民族性を理由に入学者を優遇することができないのであれば、不平等を促進することがほとんど避けられない方法で、両親や祖父母が幸運にもそのような場所に進学した学生に、なぜ優遇することができるのか、本当に理解しがたい」と言います。

コネティカット州にあるウェズリアン大学は、最高裁判決の数週間後に発表した声明の中で、レガシー・アドミッションを廃止することを発

表しました。

「ウェズリアン大学のマイケル・S・ロス学長は声明の中で、「ウェズリアン大学の卒業生とのつながりは、その志願者が本学で成功する能力についてほとんど示しません」と言いました。

「とはいえ、アフターマティブ・アクションに関する最近の最高裁判決を受け、(レガシー志願者)に対する入学者優遇措置を正式に終了させることが重要であると考えています」。

ロス氏は、ウェズリアン大学は「多世代にわたるウェズリアン大学への進学から生まれる継続的な関係を引き続き重視しますが、選考プロセスにおける "バンプ" はなくなります」と述べました。

いくつかのレガシー・アドミッション廃止の結果

近年、レガシー・プログラムを終了したいいくつかの学校では、入学クラスの人口構成に顕著な変化が見られたと報告しています。

「アマーフト・カレッジは、1 サイクルほど前にレガシー・アドミッションを廃止しました。それまでのレガシー比率は 11% でしたが、レガシー・ブーストを廃止した後、6% にまで下がりました」とパーク氏は言います。「つまり、今でも非常に競争力があり、入学できる学生がいる一方で、そのような特別な力がなければ入学できなかった学生もいるということです」。

ブリジット・カンポレターノ大学広報部長が 6 月 7 日に発表したニュース・リリースによると、アマーフト大学では 2023 年度の新入生の 19% が第一世代であり、「第一世代の大学生の割合としては過去最高」だと言います。

カンポレターノ氏によると、このクラスは 2021 年 10 月に発表されたレガシー・アドミッションの継続中止をし、学資援助へのアクセスを拡

大した「アマー・スト・ウィズ・イン・リーチ」構想の恩恵を受けております。アマー・ストはその時、レガシー入学を廃止すると発表しました。

ジョンズ・ホプキンス大学は 2020 年にレガシー・アドミッションを終了しました。

「ホプキンス大学では、レガシー・アドミッションを廃止することで、より多くのスペースと、より多くの優秀な学生を採用する機会が得られることがわかりました。」と、ホプキンス大学のロン・ダニエルズ学長は 7 月中旬に LinkedIn に投稿しました。「2013 年以降、新入生に占める家族とのつながりがある学生の割合は 8.5% から 1.7% に減少しました。同じ期間に、第一世代または所得制限のある学生の割合は 16.7% から 30.8% に上昇しました。」

レガシー・アドミッション反対派はまた、この慣行が大学入試におけるメリットを減少させるとも主張しています。

「レガシー学生たちの中には、優秀とは言えな

・記事 2) オリジナル本文 (英語)

TITLE: Legacy Admissions: What It Is and Why Colleges Are Reconsidering It
U.S. News / July 21, 2023

For decades, some colleges have given students who are related to alumni preferential treatment in admissions. This advantage, known as legacy admissions, has long been controversial, but it's come under heightened scrutiny in the wake of the recent U.S. Supreme Court ruling against college admissions policies that consider an applicant's race.

Legacy admissions, also known as legacy preferences or alumni connections, refers to a boost in a prospective student's odds of admission to a college

い学生もいることが分かってきました」とカステリーリャ氏は言います。「そのため、そうでなければエリート校に入学できたであろう人々にチャンスを与えていないのです」。

専門家は、選抜された教育機関に卒業生のコネクションがある学生でも、レガシー・スクールが適切でないかもしれないとアドバイスしています。

「私たちはいつも、ごく少数の学生を教育する、ごく一部の超エリート校について話しています」とケイシー氏は言います。「レガシー校に入学した生徒の中には、プロフィールが平均より少し低い生徒もいますが、そのような生徒は、他のさまざまな学校でも同じように満足できるでしょう」。

www.DeepL.com/Translator (無料版) で翻訳しました。

just because the applicant is related to an alumnus, usually a parent or grandparent.

David Hawkins, chief education and policy officer at the National Association for College Admission Counseling, says that just holding legacy status doesn't guarantee admission.

“It’s not something that’s applied across the board or consistently – that just having alumni relations is enough to get you in. It tends to operate more as an influence factor, once other factors are taken into account,” Hawkins says.

“Being a legacy is kind of like getting the Disney FastPass to go to the front of the line,” says Julie Park, an associate professor of education at the University of Maryland, College Park. “It’s not that you didn’t pay to get in like everyone else, and you probably have pretty decent credentials. But being a legacy is something that gives you an extra boost.”

Although being a legacy often helps students get admitted to a competitive college, many experts agree that the true value of legacy status is contextual – it depends on both the institution and the applicant.

Legacy students usually have to be at least “somewhat in the ballpark” in terms of grades, test scores and extracurriculars, says Joan Casey, a certified educational planner and founder and president of Educational Advocates College Consulting.

And if a legacy student’s parents are prominent figures, such as politicians or celebrities, or have contributed large amounts of money to their alma mater, their status may carry even more weight. Casey says some schools might even offer delayed admission to these legacy applicants if they agree to take a gap year, depending on the number of available seats in the incoming class.

Overall, observers say, legacy status offers a significant boost at many schools across the country.

Why Do Colleges Have Legacy Admissions?

The use of legacy admissions is a longstanding tradition at many higher education institutions across the country, particularly highly selective and prestigious schools like Harvard University in Massachusetts or Stanford University in California.

However, some top schools have never employed

legacy preferences and others have discontinued the practice in recent years.

Some of the schools ranked highest among National Universities by U.S. News that do not practice legacy admissions include:

- Massachusetts Institute of Technology
- Johns Hopkins University in Maryland
- The California Institute of Technology
- Carnegie Mellon University in Pennsylvania
- The University of California, Santa Barbara

“Around half of institutions may consider it to some degree,” Hawkins says, referencing a 2019 report by NACAC based on survey responses from more than 2,300 colleges and universities. “And the vast majority of those institutions don’t give it a high degree of importance, but rate it as sort of a medium to low importance in their decision-making process.”

Experts agree that one of the main motivators for institutions to give legacy preference is that it helps their bottom line.

Emilio Castilla, a professor of management at the MIT Sloan School of Management, conducted a research study focused on data from a single unnamed institution over 16 years to determine why some schools still prefer legacy applicants.

“We found strong evidence that the college we studied benefits economically from admitting legacies,” Castilla says.

Castilla says legacy students are often more likely to be financially able to pay for tuition and require less

aid, and are more likely to accept an offer from their legacy institution. Legacies may also be more likely to make larger and more frequent donations after graduation. Their legacy status can also incentivize continued donations from the related alumni.

Many proponents of legacy admissions also argue that familial ties to a school help build a sense of community among both students and alumni based on the identity of the institution.

Should Colleges Allow Legacy Admissions?

Many institutions that have legacy admissions have faced increasing pressure to halt the practice, mainly from detractors claiming the system favors more privileged applicants and decreases diversity on campus.

“It’s related to race very heavily, because the vast majority of legacies are white,” Park says. “So it’s being talked about as a sort of affirmative action for the rich, or affirmative action for the white wealthy students – because there are legacies who are also students of color, but the number is just much smaller.”

But experts agree that legacy demographics can vary between schools. Hawkins says alumni connections may not be as closely associated with wealth or race at certain institutions, making a stronger argument for community-building.

“Take smaller private institutions – an alumni connection might not be tied to wealth. It might not really be tied to privilege. Because if you think about it, there are a lot of people who have graduated from colleges in the last two decades,” Hawkins says.

Following the Supreme Court’s ruling against racial preferences in admissions at higher education

institutions, many suggest that legacy admissions should follow.

“If institutions can’t give you a leg up because of your race or ethnicity in a way that was theoretically intended to promote equality, it is really hard to understand why they can give a leg up to students whose parents or grandparents are fortunate enough to have gone to these places in a way that is almost inevitably going to promote inequality,” says Frederick Hess, a senior fellow and director of education policy studies at the American Enterprise Institute.

Wesleyan University in Connecticut announced its termination of legacy admissions in a statement issued a few weeks after the Supreme Court ruling.

"An applicant's connection to a Wesleyan graduate indicates little about that applicant's ability to succeed at the University, meaning that legacy status has played a negligible role in our admissions process for many years," Wesleyan president Michael S. Roth said in a written statement. "Nevertheless, in the wake of the recent Supreme Court decision regarding affirmative action, we believe it important to formally end admission preference for 'legacy applicants.'"

Roth said Wesleyan will "still value the ongoing relationships that come from multi-generational Wesleyan attendance, but there will be no 'bump' in the selection process."

Some Results of Ending Legacy Admissions

Some schools that terminated legacy programs in recent years have reported noticeable changes in the demographic makeup of incoming classes.

"Amherst college got rid of legacy admissions a cycle or so ago – they reported that their prior legacy

percentage was 11%, and then it went down to 6% after they removed that legacy boost" Park says. "It shows that yes, you do still have some students who are still very competitive and they're going to get in, and you have other students who without that extra little bump were not admitted."

Amherst anticipates that 19% of its 2023 incoming class is first-generation, "the highest proportion of first-generation college students in modern record," according to a June 7 news release by Bridget Campolettano, the university's director of communications.

Campolettano says the class benefits from the Amherst Within Reach initiative announced in October 2021, which discontinued legacy admissions and expanded access to financial aid. Amherst announced at that time that it would end legacy admissions.

Johns Hopkins ended its legacy admissions in 2020.

"At Hopkins, we found that ending legacy admissions gave us more space and opportunity to recruit a broader array of talented students," JHU president Ron Daniels said in a LinkedIn post in mid-July. "Since 2013, the percentage of students in our

incoming classes who have a family connection has decreased from 8.5% to 1.7%. During the same period, the percentage of first-generation or limited-income students rose from 16.7% to 30.8%."

Opponents of legacy admissions also argue that the practice diminishes merit in college admissions.

"We're finding evidence that some of these legacy students may not be the best," Castilla says.

"Therefore, you're just not allowing an opportunity to people that otherwise would have gotten into these elite institutions."

Experts advise that even for students who have alumni connections at selective institutions, a legacy school might not be the right fit.

"We are always talking about this small set of very selective schools who educate very, very few people," Casey says. "Some of these legacy students that are getting in, whose profiles are a little below the average, they could be equally happy at a wide range of other places."

3) コミュニティー・カレッジからの編入数、州政府の目標をはるかに下回る

カリフォルニア州のコミュニティ・カレッジ・システムは、4年制大学への編入学生数の目標数を下回っています。2017年に設定された当初の目標は、2022年までにカリフォルニア大学およびカリフォルニア州立大学への年間編入者数を8万9000人から12万人以上に増やすことでしたが、最新のデータでは編入者数は9万9000人程度にとどまっています。この記事では、さまざまなアプローチや資金調達方法を通じて編入率を向上させる取り組みについて論じています。

<https://calmatters.org/education/higher-education/2023/07/community-college-transfer/>

・記事3) deepL 日本語翻訳

タイトル：コミュニティ・カレッジからの編入数、州政府の目標をはるかに下回る

Cal Matters / July 24, 2023

コミュニティ・カレッジのシステムは、最も重要な指標のひとつである4年制大学への編入者数を下回っています。コミュニティ・カレッジ・システム独自の目標を大きく下回っており、議員たちも注目しています。

「ほとんどの学生は4年制大学への編入を希望していますが、編入した学生はほとんどいません。」と、今年、州議会議員たちがコミュニティ・カレッジの実績を監査するよう求めた際に書きました。

2017年に設定された目標は、カリフォルニア大学およびカリフォルニア州立大学へ編入するコミュニティ・カレッジの学生数を、2022年までに年間89,000人近くから120,000人以上に増やすことでした。最新のデータである2020-21年度には、約99,000人のコミュニティ・カレッジの学生がカリフォルニア大学またはカリフォルニア州立大学に編入しました。

コミュニティ・カレッジ総長室は、編入目標に関する質問に対し、デイジー・ゴンザレス前

臨時総長が監査に関する内部交渉の一環として3月に議員に宛てた手紙を転送して回答しました。その中で、ゴンザレス前臨時理事長は、目標は「完全には達成されていない」と書いています。

カリフォルニア大学とカリフォルニア州立大学は、2020年秋のコミュニティ・カレッジ入学志願者のうち3万人近くを不合格にしました。彼女は、カリフォルニア大学とカリフォルニア州立大学のキャンパスには「十分なキャパシティーがない」と書き、監査役に対し、編入を成功させるために相互に責任を負っているのだから、これらのシステムを平等に精査するよう求めました。

しかし、編入を測定する方法はたくさんあります。より明確に把握するために、CalMattersは、総長室の目標にとどまらず、カリフォルニア大学やカリフォルニア州立大学への編入を含むがこれに限定されない、毎年の編入学生数を分析しました。この数字は、全米の4年制大学から報告され、カリフォルニア・コミュニティ・カレッジ総長室が分析しています。非正規滞在の学生は、社会保障番号がないためカウントされません。この方法は、州の財政計算式に最も近いもので、編入者数を大学が受け取る金額と

一致させるものであります。

次に CalMatters は、コミュニティー・カレッジに入学した時点で、最終的に準学士号を取得するか編入を希望したと答えた学生の総数を比較しました。

カリフォルニア州のコミュニティー・カレッジに入学した学生のうち、4 年制大学への編入を希望したと答えた学生の平均は 9.9%でした。

学生が編入しない理由はたくさんあります。同州のコミュニティー・カレッジの学生約 180 万人は、低所得で有色人種の第一世代の学生が多いです。多くの学生、特に高年齢の学生は、学校に通いながら仕事や子供、中にはホームレスであることと両立しなければなりません。

しかし、特定の人々や大学は、他の大学よりも編入に時間がかかります。CalMatters の調査結果によると

- 地方のコミュニティー・カレッジの学生は、ベンチュラ郡、オレンジ郡、サンフェルナンド・バレー、サンブルーノ、プレザント・ヒル、レッドウッド・シティーといったベイ・エリア郊外の裕福な地域に通う学生よりも、4 年制大学への編入率が低い。
- わずか数マイルしか離れていない大学でも、編入率は対照的です。最新の 2021 年、アーバイン・バレー・カレッジの編入率は 16.7%でだったが、わずか 10 マイル離れたサンタアナ・カレッジの編入率は 5.4%だった。
- コミュニティー・カレッジの学生は若いほど編入率が高く、年齢が上がるほど編入率は下がる。2021 年には、50 歳以上の学生が編入する確率は、20 歳から 24

歳の学生の 1/4 以下だった。

地方の準備不足の学生が最大の壁に直面

ラッセン・カレッジの編入率は州内で最も低く、2021 年には 4.5%になります。最も高いアーバイン・バレー・カレッジを 10 ポイント以上下回っています。

スーザンビルにあるラッセン・カレッジの学生サービス担当副学長、ロクサーナ・ヘイズ氏は、その理由は簡単だと言いました：最も近い 4 年制大学は、80 マイル以上離れたリノのネバダ大学です。

「スーザンビルに来て周りを見渡しても、私たち以外に教育機関はありません」。

「他の郡のような収入はありません」とヘイズ氏は言いました。「学校に合格するだけではありません：学校に合格するだけでなく、そこで生活し、経済的な余裕も必要なのです」。

編入率が最も低いコミュニティー・カレッジのうち、60%は地方にあり、最寄りの 4 年制大学から数時間かかることもあります。

カリフォルニア大学アーバイン校やカルフォルニア州立大学フラートン校のような数多くの 4 年制大学に近い場合、アーバイン・バレー・カレッジの学生は、編入の選択肢をすでに熟知して入学して来ます。

農村部と都市部の格差は問題の一部ではありますが、それですべてを説明することはできないと、カリフォルニア・コミュニティー・カレッジのリサーチ・アンド・プランニング・グループのエグゼクティブ・ディレクター、ダーラ・クーパー氏は言いました。学生の収入、学校の重点分野や「文化」、さらには周辺の町や都市の経済までもが、そのコミュニティー・カレッジ

の編入率に影響を与えます。

2014-15 年度、ロサンゼルスのコミュニティー・カレッジの編入率は州内で最も低かったですが、それは学生の多くが何の準備もなしにコミュニティ・カレッジに入学してきたからです。コミュニティ・カレッジ学区の機関効果担当副総長のモーリー・ピール氏は言いました。

カレッジはこれらの学生を補習コースに入学させましたが、補習コースは修了までに何年もかかり、卒業の可能性を低下させる可能性があります。補習授業が効果的でないことを示す調査結果に裏打ちされ、2017 年に可決された法律と 2022 年に可決された法律により、大学は学生を大学レベルのコースに直接入れるようになりました。パール氏によると、これらの改革に加え、カリフォルニア州立大学やカリフォルニア大学への編入を保証する特別学位などの取り組みにより、ロサンゼルスのカレッジ全体で編入率が上昇していると言いました。

例えば、ウェスト・ロサンゼルス・カレッジの 2015 年の編入率は 5.4% で、州内で最低レベルでした。しかし、2021 年には 12.3% に上昇し、州全体の平均を大きく上回りました。

ウェスト・ロサンゼルス・カレッジの教務担当副学長、ジェフ・アーチボルド氏は、「改善されたという事実は誇りに思いますが、まだ私たちが到達したいところではありません。」と語りました。

「渦巻き」、刑務所、「編入志向の文化」が学校を異なる道に導く

若年層向けの学士号取得に特化した 4 年制大学とは異なり、コミュニティ・カレッジは周辺の町や都市の人口統計によって様々な教育機会を提供しているため、コミュニティ・カレッジと他のカレッジを比較するのは難しいで

す。

アリゾナ州との州境に近い田舎町、ブライスにあるパロ・ヴェルデ・カレッジは、コミュニティ・カレッジの中で常に編入率が最も低いです。2021 年、編入を希望したパロ・ヴェルデ・カレッジの学生のうち、編入に成功したのはわずか 1.1% でした。生徒の半分は受刑者です。ラッセン・カレッジやフェザー・リバー・カレッジなど、編入率の低い他の地方のカレッジも、他の学校に比べて受刑者の割合が高いです。

地方では、特に教育水準の高い州沿岸部の都市とは異なる就職機会がある、とクーパー氏は言いました。

「あなたがいる場所の仕事は、学士号が必要ですか？「もしそうでなければ、転校はあまりないでしょう」。

ロサンゼルスのような密集した都市部では、学生は複数のコミュニティ・カレッジで授業を受ける傾向があるため、データに「渦」が生じ、長期的な成果を覆い隠してしまうことがあります、とアーチボルド氏は言いました。

しかし、同じ都市内でも格差はまだ残っています。サンフェルナンド・バレーにあるロサンゼルス・ピアース・カレッジとロサンゼルス・バレー・カレッジは、ロサンゼルス他のコミュニティ・カレッジを常に上回っています。

ピアース・カレッジとバレー・カレッジは、4 年制大学への進学に定評があります。パール氏は、ロサンゼルス・トレード・テクニカル・カレッジのような、職業訓練や技術訓練を目的とした他のロサンゼルス・コミュニティ・カレッジを挙げました。

2008 年のリサーチ・アンド・プランニング・グループの報告書によると、特定のコミュニティ

ー・カレッジの編入率が予想以上に高い理由として、「編入志向の文化」が繰り返されていることがわかりました。また、そのようなカレッジは、地元の高校や4年制大学と密接な関係を持ち、学生への支援サービスも充実していると言いました。

この報告書は15年前に作成されたものですが、編入率のパターンは今も変わっていません。最近のデータを分析した CalMatters によると、アーバイン・バレー・カレッジなど、2008年にリサーチ・アンド・プランニング・グループが紹介した学校の多くは、現在も同校を上回っています。

裕福な地域や成績の良い高校がある地域のコミュニティ・カレッジは、編入率も高いです。「ほとんどすべての教育成果において、その背景には経済的、社会経済的な要因があることが分かっています」とファリオリ氏は言いました。

パール氏によると、ロサンゼルス・ピアス・カレッジとバレー・カレッジは、近くにある「成績の良い」チャーター・スクールの恩恵を受けており、コミュニティ・カレッジの学生がより良い準備をして入学すれば、編入率を高めることができると言いました。

編入が重要な理由

カリフォルニア大学やカリフォルニア州立大学への編入を増やすというシステムの目標を達成するようカレッジを奨励するため、コミュニティ・カレッジ当局は、コミュニティ・カレッジの資金の一部をその成果に応じて配分する新しい方式を打ち出しました。その成果のひとつが、4年制大学への編入者数であります。

しかし、コミュニティ・カレッジ・システムのリゼット・ナバレッテ臨時副理事長は、編入

率の低いコミュニティ・カレッジがペナルティーを受けることはないと言いました。

というのも、新しい資金調達方式では、成功のための一定の基準を満たした低所得層の学生の割合や、キャリア志向のプログラムを修了した学生の数も考慮されるからです。ナバレッテ氏によると、編入率の低い地方のカレッジやその他の学校には、州からの資金援助が不足する可能性を補うチャンスがあります。

たとえば、ラッセン・カレッジは、編入率が州内で最も低いにもかかわらず、昨年は、以前の資金調達方式を採用した場合よりも300万ドル近く多く資金を獲得しました。

しかし、編入率の低さが最も大きな影響を与えるのは、コミュニティ・カレッジではなく学生である、とクーパー氏は言いました。

「有色人種や低所得者にとっては、コミュニティ・カレッジが高等教育機関への唯一の道なのです。「たとえ学士号が必要であったとしても、誰もがそのまま大学に進学できるわけではないのです」。

4年制大学は選抜制で、学費も高いと彼女は言いました。コミュニティ・カレッジの学生の中には、学士号取得者よりもサーティフィケートや準学士号取得者の方が多くの収入を得られる者もいますが、彼女は、そのような学生は例外であって、普通ではないと言いました。

「誰もがビル・ゲイツを出したがる。」クーパー氏は言いました。「彼は卒業しませんでした。もしあなたがそうなれるなら、素晴らしい。でも、ほとんどの人にとって、大学を卒業することは人生にとって有益なことなのです」。

州監査役への内部書簡の中で、ゴンザレス前臨時学長は、コミュニティ・カレッジ・システ

ムが 2017 年の目標に向けて大きな成果を上げている分野を指摘した。例えば、より多くの学生がコースを修了し、学位を取得しています。

CalMatters の分析によると、一般的に、より多くの学生が 4 年制大学に編入しています。しかし、2022 年までに達成するという総長室の目標の 3 分の 1 以下の進捗にとどまっています。

・記事 3) オリジナル本文 (英語)

TITLE: Community college transfer numbers are a key benchmark of success, but they remain far below the state's own goal

Cal Matters / July 24, 2023

The community college system is falling short of one of its most important benchmarks: the number of students who transfer to a four-year college or university. It remains well below the system's own goal, and lawmakers have taken notice.

“Although most students intend to transfer to a four-year university, few do,” wrote a group of state legislators this year as they asked the state to audit community college performance.

Set in 2017, the goal was to increase the annual number of community college students who transfer to the University of California and California State University from nearly 89,000 to more than 120,000 by 2022. In the 2020-21 academic year, the most recent data available, nearly 99,000 community college students transferred to a UC or Cal State.

The Community College Chancellor's Office responded to questions regarding the transfer goal by forwarding a letter that former interim Chancellor Daisy Gonzales wrote to legislators in March as part of an internal negotiation regarding

コミュニティー・カレッジ総長室の広報担当者は、「数週間以内に新しい編入目標を発表します」と述べました。

www.DeepL.com/Translator (無料版) で翻訳しました。

the audit. In it, she wrote that the goal “has not been fully achieved.”

She wrote that the UC and Cal State system rejected nearly 30,000 eligible community college applicants in fall 2020 — more than enough transfers to meet the community colleges system's goal. She wrote there was “insufficient capacity” at the UC and Cal State campuses and asked the auditors to include equal scrutiny of those systems, since everyone is mutually responsible for coordinating successful transfers.

However, there are many ways to measure transfer. To get a clearer picture, CalMatters looked beyond the chancellor's office goal and analyzed the raw number of students who transferred every year, which includes but is not limited to those who transfer to a UC or Cal State. Those numbers are reported by four-year institutions across the country and analyzed by the California Community College Chancellor's Office. Undocumented students are not counted because they lack a Social Security number. It's the methodology that most closely aligns with the state's funding formula, which pegs the transfer numbers to the amount of money a college receives.

CalMatters then compared those numbers to the total number of students who, upon starting community college, said they eventually wanted to get an associate degree or transfer.

Of the students enrolled in a community college in California who said they wanted to transfer to a four-year university, an average of 9.9% went on to enroll at a four-year institution in 2021, the most recent data available.

There are many reasons why students never transfer. The state's roughly 1.8 million community college students are predominantly low-income, first-generation students of color. Many students, especially older students, must juggle work, children, and for some, even homelessness while attending school.

But certain populations and colleges have a harder time with transfer than others. CalMatters found:

- Students at rural community colleges are less likely to transfer to a four-year university than students who attend school in affluent parts of Ventura County, Orange County, the San Fernando Valley, and Bay Area suburbs like San Bruno, Pleasant Hill, and Redwood City.
- Colleges separated by only a few miles show stark contrasts in transfer rates. In 2021, the most recent year available, the transfer rate at Irvine Valley College was 16.7%, but just 10 miles away, at Santa Ana College, the rate was 5.4%.
- Younger community college students were most likely to transfer, and the rates drop off the older a student gets. In 2021, students over the age of 50 were more than

four times less likely to transfer than their peers between ages 20 and 24.

Rural, unprepared students face biggest hurdles

Lassen College has one of the lowest transfer rates in the state — 4.5% in 2021. It's more than 10 percentage points below the highest performer, Irvine Valley College.

The reason is easy to see, said Roxanna Hayes, the vice president of student services at Lassen College in Susanville: The nearest four-year institution is over 80 miles away at the University of Nevada in Reno.

"It feels like we're 2 hours from anything...when you come up to Susanville and you look around, there's no other educational institution besides us."

"We don't have the sort of income that other counties have," Hayes said. "It's not just getting accepted to school: I've also got to live there and afford it."

Among the community colleges with the lowest transfer rates, 60 percent are rural, and some are hours away from the nearest four-year institution.

Because of its proximity to numerous four-year institutions like UC Irvine and Cal State Fullerton, students at Irvine Valley College come to school already familiar with their transfer options, and most students don't have to move if they want to pursue a bachelor's degree, said Loris Fagioli, the director of research at Irvine Valley College.

The rural-urban divide is part of the problem, but it can't explain everything, said Darla Cooper, the executive director of the Research and Planning Group of the California Community Colleges, a

separate nonprofit organization that is funded in part by the chancellor's office. The income of the student body, the focus and "culture" of the school, and even the economics of the surrounding town or city impact the transfer rate at any community college.

In the 2014-15 academic year, Los Angeles community colleges had some of the lowest transfer rates in the state, but that's because many of its students were coming to community college unprepared, said Maury Pearl, the community college district's associate vice chancellor for institutional effectiveness.

The colleges enrolled those students in remedial courses, which can take years to complete and can reduce the likelihood of graduation. Backed by research that shows remedial classes to be ineffective, a law passed in 2017 and another in 2022 asked colleges to start placing students directly in college-level courses. Pearl said these reforms, plus other efforts like special degrees that guarantee a transfer to a Cal State or UC, have led to an uptick in transfer rates across the L.A. colleges.

West Los Angeles College, for instance, had a 5.4% transfer rate in 2015, among the lowest in the state. But by 2021, it was up to 12.3%, well above the statewide average.

"The fact that it's improved is something we're proud of, but it's still not where we want to get to," said Jeff Archibald, vice president of academic affairs for West Los Angeles College.

'Swirl,' prisons, and 'transfer-oriented culture' set schools on different paths

Unlike four-year institutions, which are often

singularly focused on bachelor's degrees for young adults, community colleges offer a range of educational opportunities depending on the demographics in the surrounding towns or cities, which can make it hard to compare one community college to another.

Located in Blythe, a rural town near the Arizona border, Palo Verde College has consistently had the lowest transfer rate of any community college. In 2021, just 1.1% of Palo Verde College students who indicated they wanted to transfer succeeded in doing so — but roughly half of the college's students are in prison. Other rural colleges with low transfer rates, including Lassen College and Feather River College, also enroll a high percentage of incarcerated students relative to other schools.

Rural areas also come with different job opportunities, especially compared to the state's highly educated coastal cities, Cooper said.

"Do the jobs where you're located require a bachelor's degree?" she said. "Because if they don't, you're probably not going to have a lot of transfer."

In dense urban areas like Los Angeles, students tend to take classes at multiple community colleges, creating a "swirl" in the data that can mask some long-term outcomes, Archibald said.

But disparities still persist, even within the same city. Los Angeles Pierce College and Los Angeles Valley College, which are located in the San Fernando Valley, consistently outperform other Los Angeles community colleges.

Pearl said Pierce and Valley College have developed a reputation for preparing students for four-year colleges or universities. He pointed to

other Los Angeles community colleges, such as Los Angeles Trade-Technical College, which are geared towards career and technical training.

A 2008 Research and Planning Group report found that a “transfer-oriented culture” was a recurring reason why certain community colleges had higher-than-expected transfer rates. The report also said those colleges had close relationships with local high schools and four-year institutions, along with support services for students.

Although the report was done 15 years ago, the transfer rate patterns have persisted. Many of those schools profiled by the Research and Planning Group in 2008, such as Irvine Valley College, continue to outperform their peers today, according to the CalMatters analysis of recent data.

Community colleges in wealthy areas or those with high-performing high schools have higher transfer rates, too. “We know this with almost all educational outcomes, there is an economic or socio-economic driver behind it,” Faglioli said.

Pearl said Los Angeles Pierce and Valley colleges benefit from “high-performing” charter schools nearby, which can boost transfer rates if community college students start school better prepared.

Why transfer still matters

To encourage colleges to meet the system’s goal of increasing transfers to a UC and Cal State, community college officials put forward a new formula that pegged a portion of a community college’s funding to its outcomes. One of those outcomes is the number of people who transfer to a four-year institution.

But Lizette Navarette, interim deputy chancellor of

the community college system, said that community colleges with low transfer rates are not getting penalized.

That’s because the new funding formula also takes into account the percentage of low-income students who meet certain benchmarks for success and the number of students who complete career-oriented programs. Navarette said rural colleges and other schools with low transfer rates have the opportunity to make up any potential gaps in state funding.

Lassen College, for example, received nearly \$3 million more dollars last year than it would have under the previous funding formula, despite having some of the lowest transfer rates in the system.

However, the greatest impact of low transfer rates is not on the community college but on the student, Cooper said.

“For most people of color, most people who are low-income, community college is their only way into higher ed,” she said. “Even if what they want to pursue requires a bachelor’s degree, not everyone can go straight to a university.”

Four-year colleges and universities are selective and can be expensive, she said. While some community college students can earn more with a certificate or an associate degree than those with a bachelor’s degree, she said those students are the exception, not the norm.

“Everybody wants to bring out Bill Gates,” Cooper said. “He didn’t graduate college....If you can be that, awesome, great, fantastic. But for most people, it’s beneficial for life.”

In the internal letter to the state auditors, former interim Chancellor Gonzales pointed to areas where

the community college system has seen significant gains toward its 2017 goals. More students are completing their courses and gaining degrees, for instance.

In general, more students are transferring to a four-year college, according to the CalMatters analysis, which includes upticks in the number of students

transferring to a UC or Cal State. But the progress remains less than third of the goal that the chancellor's office set out to accomplish by 2022.

A spokesperson for the Community College Chancellor's Office said the system will deliver a new transfer goal "in the coming weeks."

◆もっと知りたい場合◆

OPT

H-1B visa

US immigration

Legacy Admission